

## 早稲田大学 社会科学部 国語 講評

## 〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	60分(現代文1問、現古漢融合文1問)
難易度	昨年比、やや難化

## 〔大問別講評〕

(一) 評論文。「読み書き能力による国民意識の形成」について。

出典:山田俊治『大衆新聞がつくる明治のく日本』。

《本文字数:約 3300 字=昨年より約 100 字増加。設問数:10=昨年より1問減少。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【漢字】a=「忌避」、b=「推奨」、c=「踏襲」。紛らわしい選択肢はない。
問二	標準	【傍線部説明】傍線部は「雑報」の説明なので、直後の引用部分と選択肢を照合する。傍線部直後の「片仮名を浮き出す文字を工夫した」はそれ以前の記事内容であり、これと混同しないようにしたい。
問三	やや難	【傍線部説明】明治時代における「教育」が何を目的としていたかを本文全体から捉える。教育により人々を社会に役立つものにしようということである。イは前半が、ロは、「差別…とりのぞかれて」が、ハは、「健常者と同じ能力」が、ニは、「平等に力を発揮」が、それぞれ不適切である。
問四	やや難	【空欄補充】空欄甲には、「(目は見えるが)文字が読めない読者に対する教訓」が入る。原文ではホなのだが、ホは「叱咤激励」であり、「教訓」という意味ではイがより適切ではないだろうか。少なくともイを誤りとする根拠はないように思われる。
問五	やや難	【傍線部説明】傍線部を含む一文先頭の「その意味で」に着目する。直前には、「盲人や聾啞者の教育」の記事によって「読者の競争心をあおる」とある。「障害者ですら読み書きができる」という意味で差別的なのである。ホが紛らわしいが、「割り振る」が不適切。否定的なイメージは元々あったと読み取れる。
問六	やや易	【傍線部理解】直前の引用部分から容易に判断できる。
問七	標準	【傍線部説明】同段落と直前の引用部分から判断する。
問八	標準	【空欄補充】二つ前の段落内容から判断する。「地縁的な共同体を超えた『世の中』という社会関係を…内面化」とある。
問九	やや易	【傍線部説明】直後の一文で言い換えられている。
問十	やや易	【内容説明】ロは、「地縁や血縁の…」以下が不適切。容易に判断できるだろう。

(二) 評論文(現古漢融合文)。「賢き女」について。

出典:田中隆昭『交流する平安朝文学』。

白楽天『秦中吟十首』「議婚」。

范曄『後漢書』「列女伝」。

《本文字数:(現古漢合計)約 2100 字=昨年より約 800 字減少。設問数:10=昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十一	易	【文法】助動詞の活用形の問題。基本中の基本である。
問十二	標準	【空欄補充】空欄1から解く。女の親の気持ちをはばかり、という話。
問十三	やや易	【空欄補充】7行目「おほやけに仕うまつるべき」に着目する。
問十四	標準	【空欄補充】10行目「恥づかしくなむ見え侍りし」に着目する。
問十五	やや易	【空欄補充】前後に「パロディー」とあるので容易だろう。
問十六	やや易	【傍線部理解】前文の「いづこの…あるべき」とのつながりから。
問十七	標準	【空欄補充】A・Bともに次の句とのつながりから判断する。
問十八・(Ⅰ)	やや難	【傍線部理解】否定形「不敢…」に着目し、選択肢をしぼる。ハは「頂くことは構われないが」が不適。
問十八・(Ⅱ)	やや易	【返り点】使役形。基本である。
問十八・(Ⅲ)	標準	【傍線部理解】郷里の人々に称賛された少君の行動をつかむ。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は、昨年よりやや難化した。6年連続で漢文の設問が出題された。

大問一は、「読み書き能力による国民意識の形成」についての評論文。昨年よりやや難化した。本学部は、13・14年はクセのある出題だったが、15年以降はスタンダードな出題が続いている。今年は頻出論点からの出題であった。基本・標準レベルの設問はしっかり得点しておきたい。

大問二は、「賢き女」についての現古漢融合文とそれに関わる漢文。昨年よりやや難化した。基本・標準レベルの設問がほとんどなので、高得点をとる必要があるだろう。漢文では、散文だけでなく漢詩も出題され、漢文の設問数が1問増加した。本学部を受験する場合は、漢文の学習もしっかりしておきたい。